

アルゼンチン国立乳酸菌研究所 (CERELA-CONICET) における研究交流

2023年11月19～12月25日に、CFAI拠点機関であるアルゼンチン国立乳酸菌研究所(CERELA-CONICET)にて研究交流を行ってきました。CERELA-CONICETは、アルゼンチン北部に位置する都市トゥクマンにあり、首都ブエノスアイレスからは飛行機で約2時間のところにあります。季節は夏で、30℃を超える日々が続きました。受け入れてくださったのは、当研究室と10年来の付き合いがあるJulio Villena博士の研究室で、乳酸菌による粘膜免疫調節機構の解明に取り組んでおられます。

私は、「乳酸菌による腸肺軸を介する免疫増強作用」について研究しており、普段は動物由来細胞を用いたin vitro試験を行っていますが、今回の滞在では、マウスへの乳酸菌投与試験をメインに行ってきました。経口投与した後に病原体を投与し、肺における免疫応答を調べました。慣れないマウスの扱い方も、研究室の方が親切に教えてくださり、実験を行うことができました。また、Julio博士とは、私のこれまでの研究結果を共有し、ディスカッションしました。結果のまとめ方や今後の方針に関する助言もいただき大変有意義な時間を過ごすことができました。



トゥクマンの街並み

実は、2023年2～3月にも訪れており、2度目の滞在でした。前回は初めての南米生活ということで、日本と大きく異なる食や文化に対応するのに苦労しました。今回は前回の経験から、南米の生活、異なる文化を楽しむ余裕ができました。ハグをする挨拶や、友人や家族との時間を大切にしている様子から人と人との繋がりを大事にする文化を肌で感じ、とても素敵な街だと知ることができました。

最後に、1年に2度も快く受け入れて頂いたJulio博士、このような素晴らしい機会を提供して下さいました。JSPS 研究拠点形成事業、指導教員の先生方ならびにCFAIの関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

文責：東北大学大学院農学研究科 動物食品機能学分野
博士課程後期2年 福山皓太郎



Julio博士とミーティング



実験に使用したマウス



アサード(南米のBBQ)



Julio博士のラボメンバー